

梅毒病態の研究

【研究分担者】 三嶋廣繁（愛知医科大学感染症科）

【研究協力者】 山岸由佳（愛知医科大学感染症科）

研究要旨

梅毒血清学的検査からみた梅毒流行状況

梅毒が増加傾向にあるためスクリーニング検査を実施している施設等ではその結果を確実に評価する診療体制の構築が重要であると考えられる。

A. 研究目的

梅毒血清学的検査からみた梅毒流行状況

近年、国内において梅毒は急増しているが、無症状態における抗体保有状況に関する十分なデータはない。当院では術前検査の項目に梅毒血清学的検査を含めており年間相当数の梅毒血清学的検査を施行している。今回、梅毒血清学的検査結果を後方視的に実態調査した

0.9%と増加傾向であった。RPR16.0以上は79例（0.2%）でそのうち65例（82.2%）がTPLA陽性であった。

D. 考察

全体の梅毒検査実施件数が過去3年間で増加傾向にあり、RPR・TPLAともに陽性の割合が増加傾向にあることが判明した。

B. 研究方法

梅毒血清学的検査からみた梅毒流行状況

2014年から2016年の間に愛知医科大学病院で梅毒RPR定性・TPLA定性検査が実施された症例を後方視的に調査した。定性検査が実施された症例のうち定量検査も実施された症例についてはその値も調査した。本研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会の審査を経て実施した。

E. 結論

梅毒が増加傾向にあるためスクリーニング検査を実施している施設等ではその結果を確実に評価する診療体制の構築が重要であると考えられる。

C. 研究結果

梅毒血清学的検査からみた梅毒流行状況

検討期間中のべ49,352例の測定が実施され、2014年15,512例、2015年16,768例、2016年17,072例であった。診療科内訳は外来43280件（87.7%）、一般病棟5695件（11.5%）、重症系377（0.8%）件で、診療科は多岐にわたっていた。RPR陽性率は2014年0.7%、2015年1.1%、2016年1.5%と年々増加傾向であり、TPLA陽性率は2014年0.9%、2015年1.1%、2016年1.6%であった。RPR陽性者に占めるTPLA陽性者の割合は2014年44.6%、2015年43.9%、2016年49.6%であった。一方、RPR陰性者に占めるTPLA陽性者の割合は2014年、2015年とも0.6%であったが、2016年は

G. 研究発表

1. 論文発表

- (1) Koizumi Y, Watabe T, Ota Y, Nakayama SI, Asai N, Hagihara M, Yamagishi Y, Suematsu H, Tsuzuki T, Takayasu M, Ohnishi M, Mikamo H. Cerebral syphilitic gumma can arise within months of re-infection: A case of histologically proved *Treponema pallidum* strain type 14b/f infection with HIV positivity. Sex Transm Dis 45(2): e1-e4, 2018.
- (2) 山岸由佳, 三嶋廣繁. 母子感染で問題となる細菌感染症 梅毒. 臨床検査 61: 1411-1417, 2017.
- (3) Hagihara M, Yamagishi Y, Kato H, Shibata Y, Shiota A, Sakanashi D, Suematsu H, Watanabe H, Asai N, Koizumi Y, Furui T,

Takahashi S, Izumi K, Mikamo H.
Frequency of Treponema pallidum invasion
into cerebrospinal fluid in primary or
secondary early-stage syphilis. J Infect
Chemother. 2017 Dec 8 [Epub ahead of
print]

2. 学会発表

- (1) 山岸由佳、三嶋廣繁. 当院における梅毒血清学的検査の現状. 日本性感染症学会第30回学術集会 一般演題 0-02、札幌、2017.12.2

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
なし

当院における梅毒血清学的 検査状況

2018年3月3日
荒川班全体会議

愛知医科大学病院 感染症科
愛知医科大学病院 感染制御部
三嶋廣繁

緒言

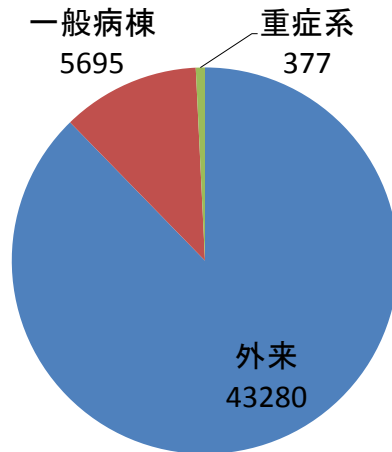
- 近年国内において梅毒は急増しているが、無症状者における抗体保有状況に関する十分なデータはない。
- 当院では術前検査の項目に梅毒血清学的検査を含めており年間相当数の梅毒血清学的検査を施行している。
- 今回、梅毒血清学的検査結果を後方視的に実態調査した。

- 2014年から2016年の間に当院で梅毒RPR定性・TPLA定性検査が実施された症例を後方視的に調査した。
- 定性検査が実施された症例のうち定量検査も実施された症例についてはその値も調査した。

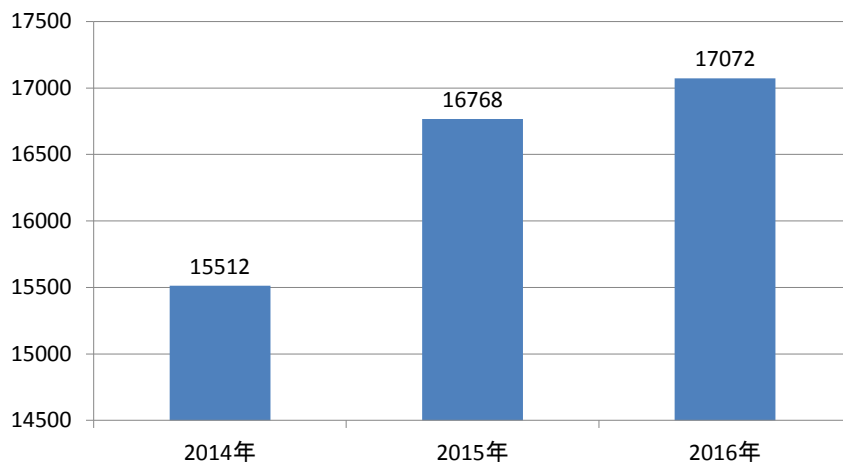
測定法

	脂質抗原 (STS) 法	Treponema pallidum (TP) 抗原法
検査原理	凝集法	凝集法
抗原担体	ラテックス粒子	ラテックス粒子
検査手法	自動測定 光学判定	自動測定 光学判定
測定時間	10分間	10分間
検体前処理	血清	血清
単位	R.U.	T.U.
陽性閾値	1.0	10.0
試薬	メディエース (セキスイメディカル®)	メディエース (セキスイメディカル®)

RPR定性・TPLA定性 診療科内訳(外来・病棟・重症系)

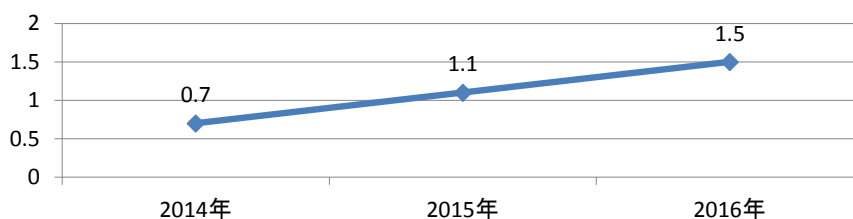


RPR定性・TPLA定性 検査数の年次推移



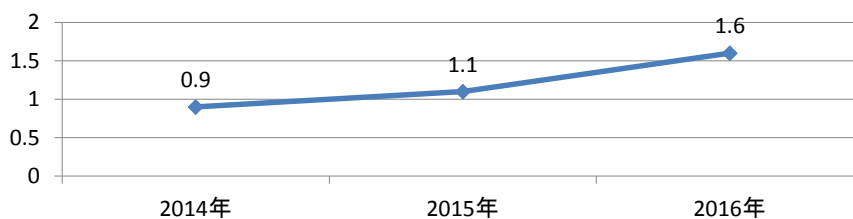
RPR陽性率の割合 年次推移

	(n)	RPR陽性	RPR陰性
2014年	(15512)	112 (0.7)	15400 (99.3)
2015年	(16768)	180 (1.1)	16588 (98.9)
2016年	(17072)	254 (1.5)	16818 (98.5)

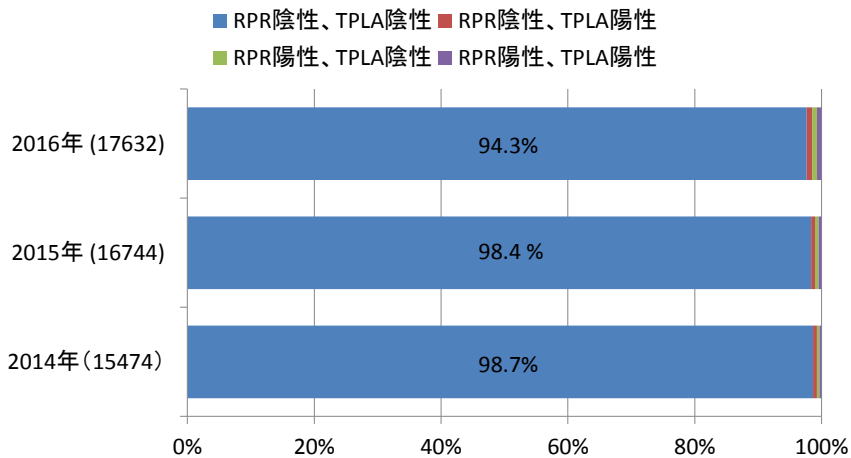


TPLA陽性率の割合 年次推移

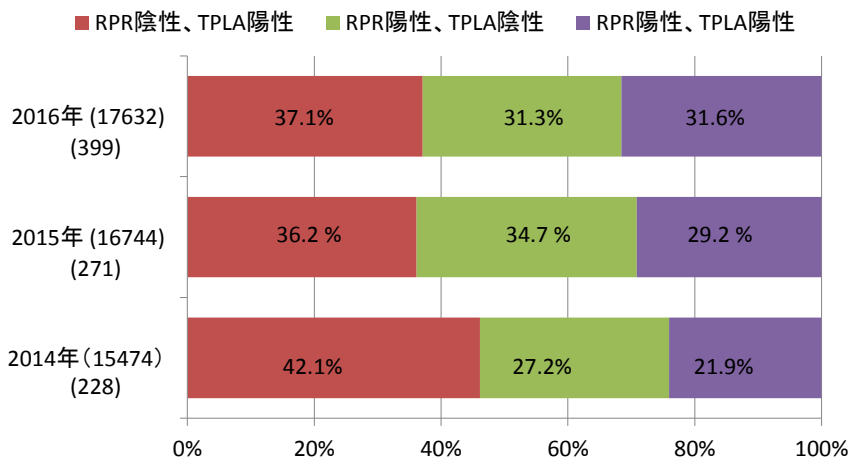
	(n)	TPLA陽性	TPLA陰性
2014年	(15512)	146 (0.9)	15366
2015年	(16768)	177 (1.1)	16591
2016年	(17072)	274 (1.6)	16798



RPR, TPLAの年次推移 (判定保留は除外)



RPR, TPLAの年次推移 (判定保留は除外)



RPR陽性者におけるTPLAの内訳 年次推移

		2014年	2015年	2016年
TPLA	陰性	62 (55.4%)	94 (52.2%)	125 (49.2%)
	判定保留	0 (0%)	7 (3.9%)	3 (1.2%)
	陽性	50 (44.6)	79 (43.9)	126 (49.6)
計		112	180	254

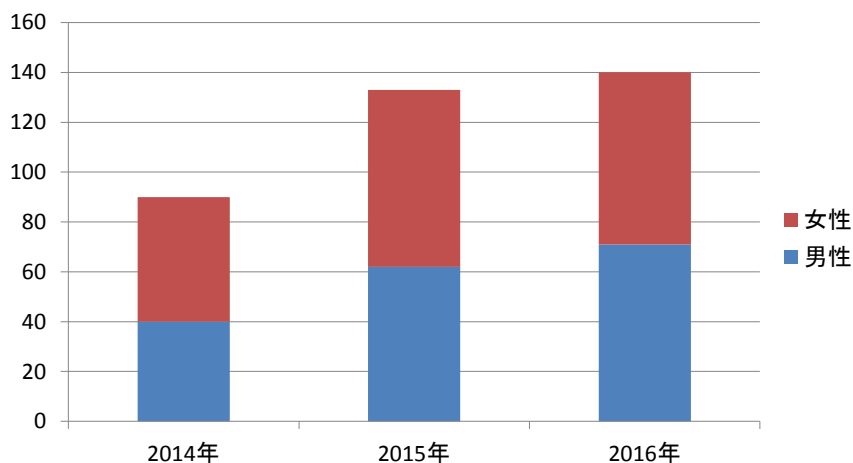
RPR陰性者におけるTPLAの内訳 年次推移

		2014年	2015年	2016年
TPLA	陰性	15266 (99.1%)	16473 (99.3%)	16633 (98.9%)
	判定保留	38 (0.3%)	17 (0.1%)	37 (0.2%)
	陽性	96 (0.6%)	98 (0.6%)	148 (0.9%)
計		15400	16588	16818

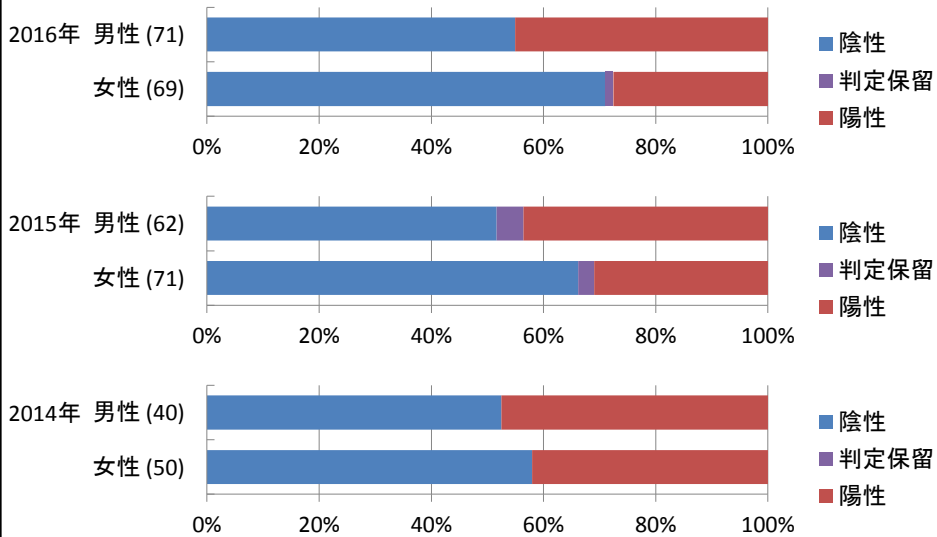
TPLA陽性者におけるRPRの内訳 年次推移

		2014年	2015年	2016年
RPR	陰性	96 (65.8%)	98 (55.4%)	148 (54.0%)
	陽性	50 (34.2%)	79 (44.6%)	126 (46.0%)
計		146	177	274

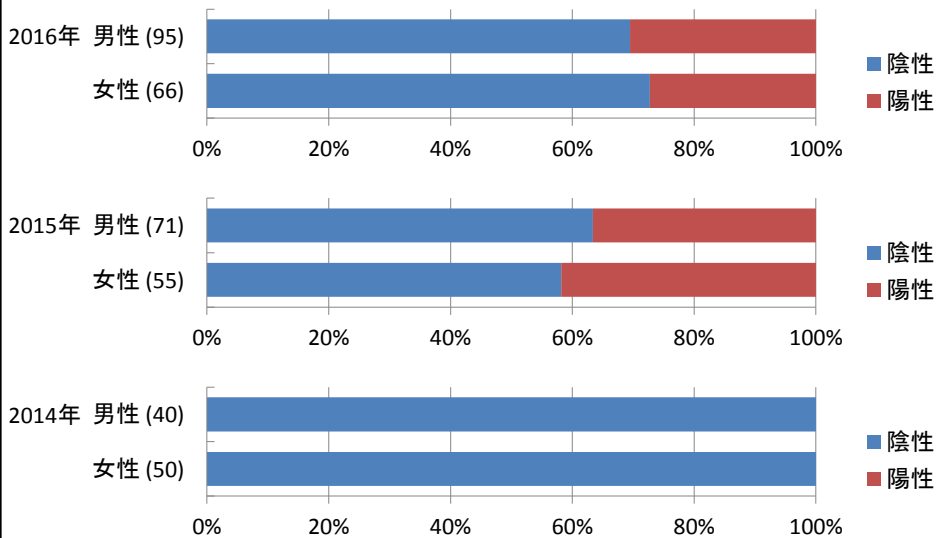
RPR陽性者の性別年次推移



RPR陽性者における年別男女別TPLAの内訳



TPLA陽性者における年別男女別RPRの内訳



まとめ

- 全体の梅毒検査実施件数が過去3年間で増加傾向にあり、RPR・TPLAともに陽性の割合が増加傾向にあることが判明した。